

問一 ① 贅沢 ② 推進 ③ 偏狭 ④ 葛藤 ⑤ 逸話 ⑥ 容赦 ⑦ 熟知 ⑧ つぶや ⑨ 鑑定 ⑩ 駆使

問二 a ウ b キ c オ d ケ e ア 問三 I エ II ク III カ IV コ V イ

問四 A 何でもわざと人にさからった行動をする人、また、そうした性質  
B ある物事の価値、人物の力量を見極める試験になるような物事  
E 学問や芸術について知識が広く理解が深く、優れていること  
F 宇宙に存在する一切のもの  
G 自分が負けたことや失敗したことを認めがらず、理屈をつけて負けていないと言い張ること 問五 自

問六 C 「白百合」は白く美しいものを象徴する花という漠然としたイメージ  
I 世界を記述し理解する方法に狭い意味の科学はまだ成功しているとは言いがたいところ 問七 感情

問八 要素還元主義的価値観によって、この世界を構成する物質と法則の基礎を突き詰めることで、世界を切り刻み細かく分割していくこと。

問九 世界の多様性を切り刻むことなく、ありのままの姿でなくては表現できない世界が個別に実在するために、ありのままの姿で理解するには、膨大な情報量が必要で、非効率な記述法でなくては語り尽くせない世界であるということが共通する。

問十 \* 効率や能率を重視した要素還元主義的な科学的価値観による、切り刻む〈ものの見方〉をしてしまい、この世界の多様性をありのままに見ることが出来なくなっていることを、受験生各人の問題意識でまとめてもらえればよい。